

2023. 7. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2113 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」

○日時：8月1日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：10組程度
《7月のおはなし会で使った本》

『おやすみ～』 いしづちひろ/さく くもん出版 2015.3

『おふとんかけたら』 かがくいひろし/さく ブロンズ新社 2019.11

『こねこの七夕まつり』 間所ひさこ/脚本 童心社 2004.7

★第1回学校図書館セミナー

○日時：令和5年8月30日（水）14：00～16：00（受付13：30～）

○会場：山口県立山口図書館 レクチャールーム

○講師：野口 武悟氏（専修大学 教授）

○内容：【講義】「学校図書館における読書バリアフリーの推進に向けて」

○対象：県内の教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、教育委員会指導主事等

○定員：会場90名（要申込み、先着順）

○申込方法：別紙参加申込書によりFAX、電子メール、又は持参での申込（HP上の参加申込書をダウンロードしてご利用ください。）

○申込締切：令和5年8月18日（金）17時（定員になり次第、締め切り）

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『バスうんでんしまーす!』 ひらぎみつえ/作・絵 金の星社 2023.5 ¥950

赤ちゃんをだっこして膝に乗せたら、バスの運転スタート! 「みぎにまがりまーす。ブルルン ブルルン」 「でこぼこみちとおりまーす。」 「ピンポン! つぎとまりまーす。」 場面に合わせて体を倒したり揺らしたり、運転手になりきって遊ぼう。見開きいっぱい、運転席からの景色が描かれた、「おひざでGO」シリーズの1冊。裏表紙に読み聞かせ動画が視聴できるQRコードあり。

<絵本-3, 4歳から>

『おきにいりのしろいドレスをきてレストランにいきました』 渡辺朋/作 高島那生/絵 童心社 2023.5 ¥1500

お気に入りのドレスを着てレストランに来た女の子。オムライスを落として、白いドレスにケチャップがついてしまい「かかかかーん」。それを見た家族が「げげげーん!」、ほかのお客さんたちも一斉に「でででーん!」。「よろよろーん…」と外へ出ると、女の子のショックはさらに伝染していく! 次々に飛び出す擬音が楽しいナンセンス絵本。第10回絵本テキスト大賞受賞作。

<絵本-5, 6歳から>

『どうぶつみずそうどう』 かじりみな子/作 偕成社 2023.6 ¥1500

かえるむらやなまむら、いしがめむらの動物たちは、用水路を作り川の水を利用して暮らしていた。引っ越してきた新しいむらのものたちも水を引こうとするが、おのおのが自分の得をいちばんに考えるせいでうまくいかない。だるまがえるのとうきちのひらめきで、公平に水をわけあうしかけ作りのためにみんなで力を合わせることに。円筒分水の仕組みを分かりやすく表現する絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『こやたちのひとりごと』 谷川俊太郎/文 中里和人/写真 アリス館 2023.6 ¥1600

「さびしくなんかないよ おひさまでてるし ことりもくるし」 田畑や山中、街中、海岸など、日頃は人の目にとまることなくひっそりとたたっている小屋。素朴な言葉で小屋たちの声を届ける詩と風景にとけこみながらも静かな存在感を放つ小屋の写真で綴られた写真絵本。2007年に出版された同名の本を底本に、出版社を新たにページ数を増やしサイズを大きくした増補改訂版。

<絵本-小学校中学年から>

『ぼくがちいさかったとき』 サラ・オレアリー/ぶん ジュリー・モースタッド/え すぎもとえみ/やく 化学同人 2023.5 ¥1800

ヘンリーが毎晩、寝る前にソファにおねだりするの…「ねえソファ、ぼくがちいさかったときのおはなししてよ。」パパが話してくれるのは「アリにひもをつけて散歩させてたよ。」「ティーポットをおふろにしてたんだよ。」「よくネコのせなかのこのってたなあ。」パパが語る小さかったヘンリーの姿はユーモアたっぷり。親子の愛情を感じる心温まる絵本。作者・画家はカナダで活動。

<紙芝居>

『原爆の子 さだ子の願い』 宮崎二美枝/脚本 江口準次/絵 南々社 2023.4 ¥2600

1945年8月6日に広島に落とされた原爆。原爆症で入院し、回復を願って千羽鶴を折り続けた佐々木禎子さんの物語は、平和への祈りとなって世界中に広がっている。本書は1994年に『私たちの声をきいて』シリーズの1冊として汐文社から刊行された紙芝居の復刻版。12場面。安芸府中高校美術部によるケースデザイン。英語の脚本がダウンロードできるQRコード付き。

<読み物-小学校低学年から>

『ぼくのなまえは、ミルクなの』 服部千春/作 たるいしまこ/絵 岩崎書店 2023.4 ¥1100

ネコのミルクが暮らすハルちゃんちに、生まれたての子ネコがやってきた。ミルクは楽しみにしていたけれど今まで使っていたベッドやえさ皿を子ネコが使うことになって…。ハルちゃんもママもおばあちゃんもみんな子ネコに夢中でミルクはおいてけぼりの気持ちになり、外に飛び出してしまふ。弟や妹ができてうれしい気持ちとかまってほしい気持ちとの葛藤に共感ができる物語。

<読み物—小学校中学年から>

『角が曲がったみつき二号』 麦野圭/作 高山ケンタ/絵 文研出版 2023.4 ¥1300

カブトムシの飼育が大好きなお父さんと小学生の姉弟さくらとみつき。カブトムシの幼虫40匹を育てほとんどは保育園に寄付し園児に世話を仕方を紹介する。残った幼虫2匹を二人はそれぞれの2号として世話し、成長を楽しみながら見守るが蛹になったみつきのカブトムシの角は曲がっていて…。生き物を育てる喜びと飼育することの責任、命について考え成長する子どもたちの物語。

<読み物—小学校高学年から>

『スカンダーと幻のライダー』 A.F.ステッドマン/著 金原瑞人・吉原菜穂/訳 潮出版社 2023.6 ¥2200

幼いころからの夢であったユニコーンライダーを目指して、訓練場となる島で仲間と共に励むスカンダー。ある秘密をもち、希少な「気」の魔法の使い手であるスカンダーは、島を破滅に導く不吉な者とされある組織から狙われるが…。切磋琢磨しながらも、正体不明の邪悪なものに立ち向かう少年たちの壮大な冒険の物語。「スカンダーと奪われたユニコーン」に続くシリーズ第2弾。

<読み物—中学生から>

『涙の音、聞こえたんですか』 嘉成晴香/著 ポプラ社 2023.5 ¥1400

わたし里井美音は高校1年生。他人の涙の音が聞こえる特異体質だが、わたしはこの能力が邪魔で、教室でも一人で過ごしている。ある時、学校で毎日聞こえる涙の音の出どころが生徒会長だと分かったわたしは、泣いていることをバラさない代わりに「昼食を教室以外で食べる権利」を手に入れようと思ひ立ち…。「泣く」行為に隠れた様々な感情に気づき、成長していく少女の物語。

『ひげよ、さらば 上』 上野瞭/著 理論社 2023.4 ¥1600

名前以外何も思い出せない猫ヨゴロウザ。気がつけば池のほとりで、やたらとどがかわき、石が入っているように頭が重く、ひどい吐き気がしていた。浮き草を吐き出すヨゴロウザに声をかけてきたのは、灰色で大きな片目の猫。池の周辺は片目の猫の縄張りだった。ヨゴロウザは片目の猫の相棒となり、古い社で暮らすことに。3分冊となった長編名作の上巻。町田尚子の装丁画。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『せかいの「おはよう」』 こがようこ/文 下田昌克/絵 岡本啓史/監修 童心社 2023.4 ¥1600

アメリカに住むエマのおはようは「Good morning! (グッドモーニング)」フィンランドに住むアイのおはようは「Huomenta! (フオメント)」。6つの言語のおはようやそれぞれの国の子どもたちの朝の様子、暮らしや文化をカラフルな絵で紹介する。巻末に紹介された国についての解説あり。『せかいの「あそぼう」』『せかいの「ありがとう」』含め全3巻。

『かいじゅうポポリはこうやっていかりをのりきった』 新井洋行/著 岡田俊/監修 パインターナショナル 2023.5 ¥1350

おこりんぼのかいじゅうポポリは毎日怒る。しっぽのことを言われて…仲間外れにされたと思って…。イライラがおさまらないポポリの前にあらわれたのはいかりのマスターかいじゅうプワイズ。プワイズは、怒りをコントロールする方法を教えてくれる。怒りの向こうにある伝えたい気持ちに気づく本。絵本作家とドクターでつくる、これから生きる子どもたちのための絵本の第2弾。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『たのしい給食!』 中西明美/監修 小峰書店 2023.4 ¥3000

日本の給食制度の充実、他国のモデルになることもある。給食の栄養バランスのよい献立、年齢や運動量に合わせた味付けや量、だれもが食べられる制度など、SDGsの視点で学校給食について解説。日本の給食の素晴らしさや歴史を写真やイラスト、漫画で分かりやすく紹介する。関連のSDGsの目標(ゴール)併記。コピーして使える書き込み式シート付き。シリーズ全4巻。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『みんなの俳句がいっぱい!学校歳時記』 白坂洋一/監修 ポプラ社 2023.4 ¥3300

五・七・五の十七音で作る世界で一番短い詩「俳句」について、基本的な型や歴史について分かりやすく解説。俳句の作り方について、テーマ探し、季語の選び方、音の組み合わせ方、楽しみ方など丁寧に紹介。月・花・動物などをテーマにした有名な俳句やその作者についての説明あり。見返しにコピーして使えるワークシート付。全5巻。2～5巻では、季語について詳しく説明する。

<ノンフィクション—中学生から>

『自然災害で変わる歴史が変わる!』 伊藤賀一/監修 国書刊行会 2023.5 ¥3800

異常気象や社会情勢の変化など、ここ数年は歴史的な変化を目の当たりにしていると言える。本書では自然災害を疫病、気象災害、地震、温暖化の4つに分類し、人類の歴史との関わりを、豊富な写真や図、地図とともに分かりやすく解説。「スタディサプリ」の中学・高校の社会科領域9科目担当者による監修。巻末年表では、気候変動や歴史的に影響の大きい自然災害を取り上げる。

<研究書>

『ハイテク企業のトップは、なぜ、わが子からスマホを遠ざけるのか』 渡辺鋭氣/著 評論社 2023.4 ¥2200

副題「学校図書館の使命と可能性」。1953年に学校図書館法が施行されて70年の節目を迎え、学校図書館の重要性を改めて考察。デジタル化の進む学校現場に対し、「国語力」の低下に警鐘を鳴らし、紙とデジタルの併用を推奨する。著者は学校図書館整備推進会議相談役で、子どもの読書活動の推進に関する法律案、文字・活字文化推進法案などの立案づくりに参画。

『絵本★百貨典』 谷川俊太郎/著 ブルーシープ 2023.4 ¥4000

展覧会「谷川俊太郎 絵本★百貨展」の公式図録。展覧会は約20冊の絵本を取り上げているがいわゆる原画展ではなく、体験型の展示も仕組まれている。本書は、20代で自費出版した『絵本』から、2023年の最新作『ここはおうち』までの著作物から172作を選び、年代順に掲載。谷川氏自身による作品解説は読みごたえがある。最新作『ここはおうち』は製作過程を掲載。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

